

# 動乗勤協定について 学習

## 才3回乗務員分科学習会(6/26)

分科通信員・発



「わかり易い…」と定評——安田講師。

乗務員分科会は、非常に厳しい国鉄情勢のもとで、動労千葉の中核を担う組織として団結を強化するために、青年層を主体とした学習会を開催していますが、第三回目は六月二六日に四〇名が参加し、千葉運転区講習室で開かれました。

学習会は乗務員分科の安田事務長を講師に、「動

安田講師が解り易く解説

乗勤協定とダイ作の概要」をテーマに始められた。最初に、新しい制度は運用表作成にあたって所定労働時間を超えて組むことを制度化するなど、大きく変わった点について概要説明を受け、制度の細部の解説に入りました。

「60・3ダイ改」以降、新しく変わった動乗勤制度について、乗務員には最も関係があるところから、参加した会員は安田講師の解り易い解説に熱心にメモをとっていました。

特に、「待ち合せ時間」「超過勤務」について多くの質問が出され関心の深さがうかがえました。学習会は十五時三十分には終わりましたが、第四回学習会は「ダイ作と賃金体系について」をテーマに、七月十日（水）、十時より、千葉運転区講習室で開催します。

「こんなタレコミ分子なんかとは、もうお茶も飲めないヨ」

### 東京N電車区の場合

### NO.5

国鉄「分割・民営化」阻止ノ三里塚二期着工粉碎!

# いま全国の動労職場で何が起っているのか?

## まるで「タレコミ・スト破り集団」と認定された動労本部

六月四日、中野電車区国労職域部が中心となって動労「本部」に対して永年にわたってお茶、正油、調味料をはじめ、日常的に必要なものについて共同使用してきたが、六月十六日より分離することの申し入れが行われた。これは異例な事態である。

さらに、六月十日には国労分会の指導指示が出されるに至った。これに対して動労「本部」は、それはあんまりひどいじゃないかと、いちゃもんつけの泣き事をならべている。

こうした事態の中で現在、津田沼の全乗務員（国労、動労千葉）は中野においては、国労のステッカーが貼られたものを共用し、これまで通りの仲間づきあいが続いている。

文字通り動労「本部」だけが職場で完全に孤立し、誰一人からも相手にされなくなっている。職場のみんなからツマはじきされる動労「本部」（東京）永い国鉄労働運動の歴史の中で、

「口なんかきけるか」「お茶も一緒に飲めるか」とまで忌み嫌われた部分といえ、例えば、組合を裏切って当局へ走った卑劣分子やスト破り分子、当局の手先・スパイ・マル生分子等に厳密に限定されてきたことは周知のことである。

これはどういう事を意味しているのか？ つまり、松崎委員長を頭に「本部」革マル分子に引きまわされている動労「本部」（東京）組合員は、今日では職場の誰からもはつきりと、そのように認定されるに至ったというを示している。

どうして、こうなってしまったのか？ この間の事実の推移を知る者にとって、「その理由」はあまりにも明らかであり当然のなりゆきといえる。

「働こう運動」から「三本柱」クリアー運動で国鉄労働者を裏切り続け、カーテン問題でも当局へのタレコミ処分要請、「格差をつける」国労組合員を「過員」扱いせよ、と当局に要求し、「国労解体」を絶叫する動労「本

### 「自業自得」

部」革マルへの怒りが一挙に爆発したものである。

「自業自得」とはいえ、全く相手にされなくなった動労「本部」は、毎日、意気消沈し、内部的にも「本部」革マルの引きまわしへの批判が公然と噴出しだす事態もおきている。

まさに、小さな問題でも決してあいまいにしないという点では決定的に重要であって、このような事態をまねいたのは、動労「本部」革マル自身であることをはつきりさせたといえる。

「分離」後の職場のふんいきは実にサバサバしていて、「動労『本部』」なんかまともに相手にしてもしょうがない」「こんな輩と一緒にお茶を飯んだりしていたこと事態がおかしかったんだ」と、誰一人として動労「本部」組合員に対する同情の声もきかれず、当然ななりゆきとの空気がみなぎっている。

いまや、動労「本部」革マルは、まったく相手にされず、ますます孤立化を深めている。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!